



手打ちうどんづくり

できました。ひとり十キログラムのみかんを千切るのは、結構疲れました。農家の方のご好意で柿やキュウイフルーツも摘むことができました。家庭へのたくさんのお土産ができました。

みかん狩りの後、与島へ向かいました。再び雨が降り出しました。咸臨丸に乗船する時には、またまた雨が上がり、瀬戸大橋を海から眺めることができました。船から降りた後、子どもたちが楽しみにしていたショッピングタイム。

子どもたちは、お土産選びに夢中になっていました。

午後五時過ぎに今日の宿泊先である「湯の谷荘」に到着し、近くの温泉「環の湯」で疲れを癒しました。

四日目。お別れ式には、民泊家庭の親子はじめ大勢の



みかん狩り

方々が見送りに来て下さいました。大西教育委員長様のお別れのご挨拶の中で、市町村合併後も、この少年交流事業が続くというお話があり、洞爺と財田の交流が次年度以降

も引き継がれることを確信し、バスに乗り込みました。

洞爺村開拓の先駆けとなった人々の故郷である香川県財田町。姉妹町村の関係を結んで三十周年の記念すべき年に訪問することができたことは、私にとっても光栄に思います。

帰村後の到着式では、お迎えの保護者の方々や桑原教育長はじめ教育委員会の皆様に、十四名の少年大使は立派にその役目を果たしてきたことを報告致しました。子どもたちが、この四日間で学んだことをこれからの自分の生き方に生かすことを期待しております。

最後になりますが、洞爺の少年大使たちを温かく受け入れて下さった財田町民泊先のご家庭の皆さん、本当にありがとうございました。そして、近藤町長様、大西教育委員長様はじめ財田町教育委員会の方皆さん、素晴らしい思い出をありがとうございました。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り致します。



テレビ電話で交流する村内の6年生

テレビ電話で交流 フレンドリーツアーの 児童

十月二十三日、香川県財田町では、洞爺村との姉妹町村盟約三十周年記念式典や閉町式典、未来フェスタin香川などのイベントが行われ、その一環として、洞爺村とテレビ電話でつなぎ、両町村の小学六年生が交流しました。



財田町の画面に映る村内児童の映像

このテレビ電話は、NTT西日本とNTT東日本の協力を得て、インターネット中継が実現したものです。

小学六年生の児童たちは、互いに訪問したフレンドリーツアーで交流しており、互いの近況を話し合い、「洞爺湖がくつきり見えます」「北海道は雪が降っていますか？」などと話して、なつかしい顔を確かめていました。